



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成31年3月25日

第40号

◆ 終刊に寄せて ～これまでの励まし、ありがとうございました～

本校の校長室の窓は、市高生が親しみを込めて「ポニーの丘」と呼ぶ前庭に開け、右手には昇降口、左手にはグラウンドが見えます。

朝、出勤して窓の外を眺めると、昇降口前やグラウンドで朝練に励む生徒の姿が目に入ります。この4年間、そんな生徒の澁刺とした姿に元気をもらい、市高での私の一日が始まりました。

この校長だより「校長室の窓から」を発行し始めたのは、着任した翌月、平成27年5月7日です。校長が、心に響いた言葉や心に残ったできごと、市高生全体で共有したい市高生の活躍などを直接語れる機会は限られています。始業式や終業式等、年に数回です。着任以来、学校にいる朝は、8時からの打合せが早く終われば、全体の打合せが始まる8時30分までの間、副校長とともに、登校する生徒の皆さんに昇降口前で朝のあいさつをしています。何かを伝えるには至りません。保護者の皆様への発信ということでは、その機会はさらに限られています。そんなことから、この「校長室の窓から」を発行することとし、この紙面をとおして本校の様子や校長としての考え、雑感、情報等を伝えてきました。楽しみにしてくださっている保護者の方からお電話や励ましの言葉をいただいたこともあります。また、ホームページにも掲載してきたので、外部の方から感想などをいただいたこともあります。お陰様で第40号を数えるまでになりました。

私は、この3月31日をもって定年退職を迎えます。「校長室の窓から」も今号が最終号になりますが、最後までお読みいただければ幸いです。

◆ さらなる成長を重ねるために ～「完全を求める」ということ～

今年度も残り1週間。皆さんにとって、この1年はどんな1年でしたか。

達成感や充実感を持って振り返ることができる人もいれば、後悔が先に立つ人もいるかもしれません。自らを振り返り、次につなげることが大切です。

さらなる成長を重ねるために、今回は「完全を求める」ということについて、皆さんと考えてみたいと思います。

◆◆ 神々は見ている ～フェイディアスの教訓～

こんな話があります。紀元前440年頃、ギリシャの有名な彫刻家フェイディアスは、パルテノン神殿の彫像群を完成させました。しかし、フェイディアスの請求書に対して、アテネの会計官は、「彫像の背中は見えない。見えない部分まで彫って請求してくるとは何事か」と言って支払いを拒みました。それに対して、フェイディアスは何と言ったか……。 「そんなことはない。神々が見ている。」と言いました。

さて、皆さんは、この話を聞いて、何を感じ、何を考えましたか。18歳の時にこの話を読み、大いに感動したピーター・ドラッカーという20世紀の偉大な経営学者は、『プロフェッショナルの条件』という自著の中で、「神々しか見ていなくとも、完全を求めていかなければならないということ、その時以来、肝に銘じている。」と語っています。

この「完全を求める」ということは、誰かと競ったり、人と比較したりするのではなく、自分の目指す「完全」という絶対的な目標に、ひたすら向かっていくことだと思います。「完全」というのは難しく、なかなか手が届きません。だからこそ、常に前進することができます。一気に辿り着こうとすると挫折してしまうかもしれません。しかし、諦めずに一歩ずつ前に進めば、必ずその分だけ近づくことができます。

私は、この4年間、「より高きを目指せ」という言葉で市高生を励ましてきました。ポテンシャルの高い皆さんだからこそ、決して自分で自分の限界を作らず、高い目標に向かって成長し続けてほしいと願っています。人は、いつまでも成長し続けることができます。そして、自分でも気づかなかった「自分のすごさ」にたくさん気づいてください。

1週間後、1年生は2年生になります。行事でも、部活でも要の学年です。2年生はいよいよ最終学年。希望の進路をぜひ実現してください。皆さんには、無限の可能性があります。自信と誇りを持って、前に進んでください。

私は、皆さんが、持っている力を存分に発揮し、充実した高校生活を、そして、納得のいく豊かな人生を紡いでくれることを心から願っています。

感謝の声をいただきました

3月8日(金)の午後、小学生の息子さんを持つあるお母様から本校生徒への感謝の電話をいただきました。その日、たまプラーザの駅で待ち合わせた小学生の息子さんと会えずにいたところ、改札で泣いていた息子さんを見かけた本校生徒(1年男子)が声をかけ、お母様の連絡先を聞いて連絡したことで、無事息子さんと会えたとのこと。今回のような素晴らしい生徒がいる市ケ尾高校に息子さんをぜひ入学させたいという、嬉しいお言葉までいただきました。

後日、お二人からの葉書も届きました。その葉書には、小学生らしい太々とした鉛筆の文字でお礼の言葉ともし困っている人を見かけたら本校生徒を見習って助けたいという気持ちが綴られていました。また、お母様からもお礼の言葉が添えられていました。

本校生徒の行為への感謝の気持ちを、電話と葉書で届けてくださったお母様とお子様にも心から感謝申し上げます。



今年度の特徴ある教育活動から ～ 特別教育プログラム～

今年度は、部活動や委員会活動には含まれない継続的な教育活動を「特別教育プログラム」と位置づけ、昨年度から継続している「市ケ尾ユースプロジェクト」（まちの未来づくりプログラム）に加え、「国際理解教室」（グローバル・リーダーシップ講座）、「食ラボ・市ケ尾高校」を展開してきました。全て公募による生徒の自主的な参加です。今年度の全てのプログラムが無事終了したので、概要を報告します。今年度得た教育的財産を、来年度から始まる「総合的な探究の時間」に生かしていきたいと考えています。

本校では、このほか、「キャリアアップ講演会」「スタディアップ講演会」など、生徒が自らの意思で参加できる学びを大切にしています。それは、自ら意思決定したことが最もモチベーションを持って臨むことができるからです。

食ラボ・市ケ尾高校



着任以来、本校らしい工夫と広がりのある「食育」を実践したいという思いがありました。4年目にしてその念願がかない、「食ラボ・市ケ尾高校」（3回連続講座）が実現しました。

この取組は、「食育」を健康や食生活の面からだけではなく、地球環境やエネルギー資源などグローバルな視点からもとらえるダイナミックな食育です。それを可能にしてくださったのが、慶應義塾大学 SFC の巖網林研究室と一般社団法人スマート・ウィメンズ・コミュニティの東みちよ代表理事（本校8期生）です。

第1回（11月14日）では、巖網林教授からの食と地球との関わりについての講演と東さんが提唱しているローフード・フードについて学びました。第2回（12月12日）では、リーフレット作成チームと地産地消のレシピを考えるチームに分かれての協議。第3回（1月14日）は、レシピチームが考案した地元の白菜をまるごと使った調理を行いました。この取組には、本校生徒、教員の他、食育に関心の高い保護者や地域の方、青葉区ヘルスマイト（食生活改善推進員）の皆様が参加してくださいました。学びのフィールドを地域に広げることで、本校の教育活動の可能性が広がることを実感しています。



【第1回】ローフード・フードについて学ぶ。



【第3回】チームで考えた地元の白菜をまるごと使ったレシピで調理。



【第2回】2つのチームに分かれて協議。



当日のメニュー。白菜一つでこのバリエーション。

国際理解教室(グローバル・リーダーシップ講座)

グローバル教育でも、真の国際感覚を身に付けられる学びが実現しました。それが、本校の学校運営協議会委員である福田晴好さんによる13回連続講座「国際理解教室」（グローバル・リーダーシップ講座）です。

福田さんは、国内大手企業在職時代から海外で活躍され、その後、外資系大手企業の社長等を歴任。現在、千葉県私立高校の国際理解関係科目の特別講師として教壇にも立っていらっしゃいます。

国際ビジネス、海外駐在経験だけでなく、海外でお子様を育てられたご経験を併せ持つ福田さんならではの豊富なエピソードやユーモアに富んだお話、多岐にわたるテーマや資料など教科書では到底学べない内容です。生徒の価値観や人生観に広がりや深まりがあったことと思います。

最終日には、びっしりと寄書きされた色紙と花束が、生徒から福田さんに贈られました。

この講座には、本校生徒、教員だけでなく、保護者や地域の方、教育関係者の皆様にも自由に聴講していただき、充実感あふれる学びの空間となりました。

- ① 5/25 (金) キックオフ&オリエンテーション
- ② 6/ 8 (金) めざせグローバル・リーダー
- ③ 6/22 (金) ダイバーシティ(多様性)とハラスメント ①
- ④ 7/13 (金) ダイバーシティ(多様性)とハラスメント ②
- ⑤ 7/20 (金) 異文化コミュニケーション ①
- ⑥ 9/14 (金) 異文化コミュニケーション ②
- ⑦ 9/21 (金) 心得ておきたい国際マナーの基本 ①
- ⑧ 10/ 5 (金) 心得ておきたい国際マナーの基本 ②
- ⑨ 11/ 9 (金) 心得ておきたい国際マナーの基本 ③
- ⑩ 11/16 (金) 紳士(Gentlemanship)とは
- ⑪ 12/ 7 (金) 武装中立国スイスの生き方に学ぶ
- ⑫ 1/11 (金) これからの国際ビジネス
- ⑬ 1/25 (金) 「7つの習慣」に学ぶ成功の秘訣&贈る言葉
- ※ 各回ともに放課後に実施。



最終日には記念写真を撮影。充実感あふれる笑顔です。

市ケ尾ユースプロジェクト(まちの未来づくりプログラム)



3月13日(水)の午後、本校生徒が市ケ尾中学校の生徒や地域の大人と力を合わせてまちの未来づくりや活性化に取り組む「市ケ尾ユースプロジェクト」の成果発表会が、青葉公会堂で行われました。当日は、地域の方などを含め、約90名が参加。7つのチームそれぞれの今年度の活動を発表。青葉区の小出区長からもコメントをいただきました。

今年度は、5月から1月まで月1回のペースで全体でのワークショップを実施。その他、夏休みや週末に活動したチームもあります。活動2年目ということもあり、地域に出るのヒアリングやアンケート調査の実施、市ケ尾の魅力発信や商品開発、政策提言など、活動の幅がさらに広がり、内容も充実しています。発表のプレゼン力も高まり、自分の体験を自分の言葉で語る姿に感動しました。各チームの主な活動は次のとおりです。

チーム名	主な活動
まもる	地域の安全をテーマに、中学生や地域の方にアンケートを実施し、そのアンケート結果をもとに危険スポットを示す地図を作成。調査結果と自分たちで考えた対応策をもとに、土木事務所や町内会長と意見交換も実施。
Linkage (リンケージ)	障がいへの理解を深めて偏見をなくし、健常者と障がい者との自由なつながりを目指して活動。地域の福祉ホームへの訪問、区民まつりでの障がいを持つ児童の案内、交流イベントの開催など。
Peeya (ピーヤ) & おいでよ市ケ尾	市ケ尾の魅力を発信し、多くの人に訪れてもらうことを目指し、区民まつりではアンケートを実施し、インスタ映えマップを掲示。その活動を通して市ケ尾駅前商店街の道路沿いにある何体かの銅像(モニュメント)に注目。今後、さらなる活動へ。
老若男女	市ケ尾に住む全ての人が元気になることを目指し、地域のイベントに参加。市ケ尾ユースプロジェクトの周知も目指す。市ケ尾中学校の文化祭でのPR、区民まつりでの広報活動、区民マラソンでの応援や市ケ尾小学校餅つき大会でのボランティア活動など。
まちづくり	市ケ尾のまちが、世代を超えて引き継がれ、住み続けたいまちであり続けるためのニーズを考察。1次アンケート、2次アンケートによる調査結果をもとに提言書を作成。さらに区役所が実施した区民の意識調査との差異を提言書に反映させることを検討。
イートイン市ケ尾	市ケ尾の食べ物の魅力を知ってもらい、多くの人に食べてもらうことを目指して活動。まずは地域の店舗や商品調査。野菜直売会や農園で売られている野菜についてもヒアリング。地元野菜を使ったスイーツ「いちコロ」を企画。地元商店で販売が実現。
ユース広報部	市ケ尾ユースプロジェクトの活動を知ってもらうことで地域の人々の興味・関心を高めることを目指し、様々な広報活動を展開。かべ新聞を作成し、市ケ尾中学校の文化祭、区民まつりで掲示。イツコムラジオ出演。「広報よこはま」(青葉区版)にシリーズ企画として掲載(11月号～4月号)等。



成果発表会：チーム「まもる」の発表



チーム「イートイン市ケ尾」が企画した「いちコロ」。地元のパン店「マフィーユ」で2/26～2/28の3日間限定販売。スイーツポテト風の上品なスイーツです。

授業拝見：英語科 藤井先生

2月6日(水)の1校時、1年6・7組の「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業を参観しました。グループに分かれてのポスターセッションで、どのグループのポスターもかなりの力作。今回は、原稿を見ながらでしたが、皆、生き生きと1年間かけて鍛えたリテリングの力を披露してくれました。英語での質疑応答などもあり、とても充実した授業で、これからがとても楽しみです。

【藤井先生から一言】

英語を話す技能を、リテリングを用いて1年間指導してきました。また、協同学習の技能として、「学習への努力と仲間の学習への貢献を認め、賞賛すること」、「直ちに学習の躓きを改善し、必要な支援や励ましを与えること」、また、「メンバーの無駄な労力を省くために、役割を割り当てし直すこと」の3点を意識させました。今回の活動を第一歩とし、自らの言葉でのリテリングなど、より高度な技術を身に付けさせるよう指導していきたいと思います。



にこやかに説明する生徒、うなずきながら真剣に聴く生徒。楽しそうに取り組む生徒たちに、頼もしさを感じました。

文部科学大臣優秀教職員表彰

本校では、3年連続で、佐藤治郎先生(国語科：28年度)、真島徹也先生(地歴公民科：29年度)、小野亜希子先生(芸術科(音楽)：30年度)の3名の先生が県の優秀授業実践教員表彰を受けています。今年度はさらに、教職経験10年以上が対象となる「文部科学大臣優秀教職員表彰」を小野先生が受賞。

本校では、組織的に授業研究を進めています。ICTを活用する先生も多く、このたび、PTAからの寄付と技能員の小松さんの協力で、校内45教室に100インチのスクリーンを設置することができました。さらに充実した授業が実践できると思います。

ダンス部が県新人大会で初優勝&かながわ部活アクティブ賞

1月26日(土)に海老名市で開かれた神奈川県高校ダンス新人大会「フリー部門」で、本校ダンス部が初優勝を飾りました。今回は、初めて大会に参加する1年生を加え、1、2年生総勢72名で挑んだ大会です。今回のテーマは「雪国」。衣装の色を利用した舞台効果や全員で踊るダイナミックなダンスなど、本校ダンス部の強みを生かして雪国を表現。凍った仲間たちに火がついて元気よく踊りだす演技や衣装のジャケットでピンクや緑など4色を使ってオーロラを描く場面など、会場を大いに沸かせました。



県高校ダンス新人大会にて

また、ダンス部は、今年度の「かながわ部活ドリム大賞」で「かながわ部活アクティブ賞」を受賞。2月2日(土)に県立総合教育センター(善行庁舎)で行われた表彰式で表彰されました。

同賞は、活動実績が学校の特色に繋がる顕著な取組である部、校内や地域において地道に活動し、他の部活動・生徒の模範になるような活動をした部等に贈られます。



「かながわ部活ドリム大賞」表彰式にて

ソフトボール部が地域の防災訓練に参加



本校ソフトボール部の生徒が、2月2日（土）に市ケ尾小学校の体育館で行われた上市ケ尾町内会の防災訓練に参加しました。当日は、段ボールを利用した簡易ベッドの作製、消火活動のデモンストレーション、起震車体験、心肺蘇生法講習会などが行われました。



協力して簡易ベッドを作製



段ボール製の簡易ベッドは、思っていたよりも丈夫で暖かい。

段ボール製の簡易ベッドは、強度が高く、コストが安いだけでなく、暖かさや収納性、引越しの時は「箱」になる等のメリットで、東日本大震災以降、普及が進められています。

東日本大震災では、高校生が、避難所の内外を問わず、様々な役割を担いました。災害発生時、高校生は、周囲の大人と協力して災害弱者である高齢者や幼児たちの介助等をするなど、多くの場面でその力が必要とされます。今回、地域の防災訓練に参加することで、高校生ができることやその役割について考え、防災意識を高めることができたのではないかと思います。

はじめての「キャリアアップワークショップ」



3月21日（木・祝）と23日（土）、慶応義塾大学大学院のメディアデザイン研究科の学生がファシリテーターを務め、日本の高校生と海外の高校生がスカイプを使って交流する企画が開催されました（会場：慶応義塾大学日吉校舎）。本校では、「キャリアアップワークショップ」として位置づけて募集し、2名の生徒が参加。多摩高校の生徒とともに海外の高校生との交流を楽しみました。



1日目のワークショップ。新たな学びへの挑戦です。

テーマは、“10years design challenge”（10年前と今とを比較する）。世界の人々や情勢が、10年前と今とを比較してどれくらい変化したか、あるいは変化していないかを考え、さらにこれからの将来をどのようにデザインしていくのかを考えます。

はじめは緊張していた本校生徒もしだいに慣れ、生き生きと活動していたとのこと。とても貴重な学びだったと思います。今回の経験をぜひ今後に生かしてください。

環境の整備が進んでいます ～南棟トイレの改修～

夏から始まった南棟（1～5階）のトイレの改修工事が12月に終わり、トイレ環境が一変しました。デザイン（配色）は、昨年度の中央棟2階トイレの改修時と同様、生徒による投票で決定。結果は昨年度と同じで、ダークブラウンを基調としたシックなカラーコーディネートです。少しずつですが、環境が整備されていくのはうれしいものです。

中央棟の壁の落下防止工事も行いましたが、工事方法は、落下の可能性のある部分を打ち落として塗装しただけの簡易なもの。凹凸がそのままになっている壁の凹部分に、美術の先生や生徒が鯖や金魚、植物などを描いて貼ってくれました。洒落た配慮に感謝！感謝！です。

「あとがき」にかえて

退職の日まで残りわずかとなりました。大学を卒業してすぐに埼玉の県立高校の教員になり、その後、編集プロダクション勤務、専業主婦を経て、再び、神奈川の県立高校の教員として教壇に立ったのが平成元年。神奈川での教員としての30年は、まさに「平成」とともにありました。

神奈川の教員になってからも、ごく普通の教員生活は最初の10年。その後は、知事部局（児童福祉課）勤務の後、現場に戻りましたが再編統合に関わり、その後、教育局（高校教育課）では横浜修悠館高校の開設準備を担当。同校の初代教頭になってから今日まで、管理職を11年5か月務めました。

予期せぬ出会いや機会に導かれてキャリアを重ねてきましたが、常に全力を尽くしてきたので、やり残し感はありません。これもご協力、ご支援くださった皆様のお陰です。4月からはかねてからの希望がかない、困難を抱える若者のために尽力していきたいと考えています。

これまでお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。

何と！校歌碑は灰白色だった！ ～「おやじの会」が高圧洗浄～

PTAおやじの会の皆さんが、3月17日（日）に、正門を入ってすぐ、花壇の手前にある校歌碑を高圧洗浄してくださいました。すると、誰もが「濃灰色」だと思っていた校歌碑が、何と「灰白色」だったことがわかりました。長年の汚れがすっかり洗い流された校歌碑をぜひ見てください。見違えるような明るい色に驚きます。

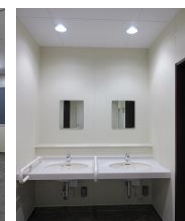
当日は、おやじの会の皆さんが、南棟5階の窓も拭いてくださいました。いつもありがとうございます。おやじの会の皆様のお陰で校内がどんどんきれいになっていきます。心から感謝申し上げます。



写真だとわかりにくいかもしれませんが、驚くほどの色の違いです。ご来校の際は、ぜひご覧ください。



男子トイレ



洗面台



女子トイレ



金魚にメダカに浮草。きれいな色合いです。



鯖の色合いがとてもきれいアルです。

♪♪♪合唱部定期演奏会♪♪♪

【日時】3月27日（水）18:00 開演

【会場】青葉区民文化センター

リハーサル室

～皆でぜひ聴きに行きましょう！～